

論文審査の結果の要旨および担当者

報告番号	※ 甲	第	号
------	-----	---	---

氏 名 平松 武

論 文 題 目

**Usefulness and safety of endoscopic retrograde cholangiopancreatography in children
with pancreaticobiliary maljunction**

(小児膵・胆管合流異常診断における内視鏡的逆行性胆膵管造影の有用性とその安全性の
検討)

論文審査担当者

名古屋大学教授

主 査 委 員

柳野 正人 


名古屋大学教授

委 員

小寺 泰弘 

名古屋大学教授

委 員

長 純 哲 二 

名古屋大学教授

指 導 教 授

後 藤 秀 実 

論文審査の結果の要旨

膵・胆管合流異常(pancreaticobiliary maljunction:PBM)は、その病態から胆道癌の発症率を増加させることが知られており、小児期においても発見されれば予防的手術の対象となるため早期の正確な診断が必要である。本研究では手術時に必要となる解剖学的部位に焦点を絞り、小児 PBM に対する全身麻酔下 ERCP の描出能およびその安全性につき MRCP と比較検討した。

検討の結果、膵管・合流部において MRCP に比して ERCP は描出率が有意に高値を示した。また、偶発症についても ERCP 後膵炎などの重篤な偶発症を認めず、安全性が確認された。この結果、小児 PBM に対する全身麻酔下 ERCP は MRCP に比して高い精度の膵胆管像が得られ、安全で有用な検査であることが示唆された。

本研究に対し、以下の点を議論した。

1. 成人を含めて ERCP と MRCP を比較検討した論文は多数あるが、小児 PBM に限定して ERCP と MRCP を比較検討した論文は本研究のみであった。
2. 特殊カテーテルの使用はせず、通常成人でも使用する Olympus 社製 PR-110Q (先端部 9mm) を使用。また、本研究において問題なく検査・処置施行可能であった。
3. 全 29 例中詳細が解析できた症例は 22 例で、2D 法は全 22 例 3D 法は 20 例で施行していた。詳細を解析することが不能であった 7 例については 2005 年 12 月以前に撮像したフィルム画像症例であった。
4. protein plug 描出不良であった MRCP 画像 5 例中 2 例において Axial 画像で、protein plug が確認されていた。

以上の理由により、本研究は博士(医学)の学位を授与するに相応しい価値を有するものと評価した。

試験の結果の要旨および担当者

報告番号	※甲第	号	氏名	平松 武
試験担当者	主査	柳田 正人	小寺 泰弘	長谷川 隆
	指導教授	後藤 秀実		
<p>(試験の結果の要旨)</p> <p>主論文についてその内容を詳細に検討し、次の問題について試験を実施した。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 小児膵・胆管合流異常に対してERCPとMRCPを本研究と同程度の症例数を検討した他論文の有無について。 2. 小児膵・胆管合流異常において乳幼児を含めた小さい症例が対象となるが、ERCP施行時、特殊造影カテーテル使用の有無について。 3. 本検討MRCP 全29例中、2D法と3D法を使用して撮像した各症例数について。 4. 本検討MRCP画像でprotein plugが描出不良であった症例でのT1強調画像・T2強調画像のAxial画像におけるprotein plug描出能について。 <p>以上の試験の結果、本人は深い学識と判断力ならびに考察力を有するとともに、消化器内科学一般における知識も十分具備していることを認め、学位審査委員合議の上、合格と判断した。</p>				